

がんと感染症の最新情報

主催/静岡新聞社・静岡放送

共催/県立静岡がんセンター、三島市、長泉町、裾野市、函南町、清水町、三島市民文化会館

特別協賛/スルガ銀行

静岡がんセンター公開講座 2020 「がんと感染症の最新情報」(静岡新聞社・静岡放送主催、県立静岡がんセンター、三島市、長泉町、裾野市、函南町、清水町、三島市民文化会館共催、スルガ銀行特別協賛)の第1回がこのほど行われました。講座は新型コロナウイルス感染拡大リスク防止のため、初の試みとなるインターネットの動画生配信(事前登録制)で、初回は倉井華子感染症内科部長が「新型コロナウイルス感染症の最新情報」、山口建総長が「コロナ防止とがん封じ」と題し、それぞれ動画を通じて講演しました。その概要をまとめました。(企画・制作/静岡新聞社地域ビジネス推進局)

コロナ防止とがん封じ

静岡コロナ死者 極少数
感染症とは細菌、ウイルスや寄生虫などの外敵によって起こる病気です。現在、世界中で猛威を振るっている新型コロナウイルス感染症の死亡者数は、人口比で日本を含む東アジアでは非常に少なく、さらにわが国の47都道府県の中でも静岡県は全国平均の50分の1程度と、非常に低く抑えられています。この現象を、私は静岡の頭文字を取って「ファクターS」と申し上げています。その要因は三密を避ける県民の賢明さ、医療の充実、行政の努力などでしょう。

このウイルスは、発症前、あるいは無症状の患者さんが他人を感染させるのが特徴です。感染ルートとしては、咳やくしゃみ、会話によって飛び散る唾液による飛沫感染が挙げられます。し、つばがテーブル等に付き、そこからの接触感染も起きています。また、長時間、空気中を漂うウイルスを含む微細な粒子「エアロゾル」も原因となります。

新型コロナウイルスの感染力は、コピー用紙やティッシュペーパーのような紙類では、3時間後に消失します。木や布の場合には感染力の消失までに2日、ガラスや紙幣では4日、ステンレス、プラスチックでは7日です。医療用のサージカルマスクの場合、特別な繊維にウイルスが吸着される半面、7日たっても感染力が残るので、マスクを捨てる際には注意が必要です。

消毒の効果も紹介します。70%の消毒用アルコール、家庭用漂白剤、石けんをそれぞれ使用すると、石けんは少し効果が弱いものの、いずれも5分後に類の検査方法があります。よく耳にするPCR検査は、ウイルスの遺伝子を増幅させて行います。感度は高いのですが、特別な機械が必要で、検査に時間がかかるのが難点です。次に、ウイルスそのものを見る抗原定性検査。感度は高くないのですが、機器は不要です。抗原定量検査は、定性検査とPCR検査の中間の精度で、機器は必要ですが、判定結果は15〜30分と非常に早いのが特徴で、県内でも行える施設が増えています。

新型コロナウイルスの特効薬はまだ決定打がありませんが、今、主に三つの薬剤の解析が進んでいます。一つはステロイド剤。酸素吸入されるような中等症以上の患者さんで死亡率を下げるなど良い成績が出ています。抗ウイルス薬ではレムデシビル、ファビピラビル(アビガン)が使われていますが、どちらも回復が数日早まる程度の効果で、特効薬にはなり得ません。また、ワクチンの開発も進んでいます。私たちができることは、感染しないことです。感染経路に関しては、いわゆる「三密」、換気が悪い密閉した空間、密集した場所、密接する状況を回避してください。感染経路は、ウイルスの感染力は消失しませんが、マスク着用、手洗い、消毒を徹底し、三密空間を避けて、社会的距離を取るように日常生活に心がけましょう。



県立静岡がんセンター 総長

やまぐち けん 山口 建氏

1974年慶応大医学部卒。99年国立がんセンター(現・国立がん研究センター)研究所副所長。2002年から現職。厚生省がん対策推進協議会会長などを務める。研究領域は乳がん治療、腫瘍マーカー、ゲノム医療、がんの社会学。1950年三重県生まれ。

感染拡大への備え

感染が命に関わる場所としては、高齢者がいる家庭や体力が弱った人々が入院、入所している病院や高齢者施設が要注意です。ほかにスポーツクラブやカラオケハウス、接待を伴う飲食店、寮、宗教施設、コールセンターのような声を出し続ける職場、満員電車なども感染の機会が多いので気を付けましょう。

感染症からのがんも

次に「がん封じ」の話をしていきましょう。がんの原因は、生活習慣に関わるものが8割を占めています。近年、感染症によるがんも注目されています。例えば、胃がんはヘリコバクター・ピロリ菌、肝臓がんの多くは肝炎ウイルス、子宮頸がんはヒトパピローマウイルスなどが原因とされています。これらの感染者の極一部ががん発症に至るのですが、現在では感染症治療薬やワクチン類が開発され、予防や治療に大きな進歩が見られています。

もしがんが見つかったら、手術、放射線、薬物療法の三大治療のほか、今では支持療法、緩和ケアなど、患者さんやご家族への支援も充実しています。がんと向き合い、積極的に治療を受ける姿勢が大切です。一人ひとりのがん対策には、「予防、検診、日常診療」という3点セットが重要です。現在では進行したがんも含め、6割の方ががんは治癒する時代です。新型コロナウイルスの感染拡大が始まったこの約10カ月間、静岡県では2人の方がコロナ感染症で亡くなりました。その一方、同じ期間に1万人近くの方ががんを命を落とされています。コロナ感染だけに目を向けず、「がん封じ」を心掛けましょ

新型コロナウイルス感染症の最新情報

予測つかぬ冬の感染症
今年の世界で新型コロナウイルス感染症が拡大し、私たちの生活もガラリと変わりました。わが国でも首都圏を中心に、いまだ多くの感染者が出ています。本県は、現在1日10人未満と低めですが、この冬はまだ予測が付きません。コロナウイルスの症状は熱やせき、呼吸苦といった呼吸器症状がメインですが、倦怠感、下痢、嘔気、嘔吐、頭痛が起こる方もいます。さらに8割の患者さんに味覚異常や嗅覚障害が出ています。後遺症が続くのも特徴的で、87%の方が倦怠感、息苦しさ、関節痛、胸痛、頭痛、睡眠障害、嗅覚・味覚症状に悩まされています。

その一方で、全く無症状の感染者も全体の3割以上います。一般的には感染者の約80%は軽症で、20%が肺炎の症状が出て入院し、5%が人工呼吸器等による集中治療が必要になります。死亡率は2〜3%です。60歳以上の高齢者、さらに女性より男性の方が重症化しやすいと言われています。18歳未満の若年層は罹患しにくく、感染しても軽症が多く、インフルエンザとは性質が異なるウイルスです。また、心臓や呼吸器、腎臓に既往症がある方や糖尿病の方も重症化傾向にあります。

決定打のない特効薬
新型コロナウイルスには3種類の検査方法があります。よく耳にするPCR検査は、ウイルスの遺伝子を増幅させて行います。感度は高いのですが、特別な機械が必要で、検査に時間がかかるのが難点です。次に、ウイルスそのものを見る抗原定性検査。感度は高くないのですが、機器は不要です。抗原定量検査は、定性検査とPCR検査の中間の精度で、機器は必要ですが、判定結果は15〜30分と非常に早いのが特徴で、県内でも行える施設が増えています。

がん見逃しは本末転倒
新型コロナウイルスの感染力は発症1〜2日前がピークで、無症状のまま周囲に感染させるケースが多いのです。自覚症状がないから大丈夫と油断せず、マスクは着用してください。発症後6日以降には2次感染のリスクが減るため、最近では入院期間も以前の14日間から10日間へと短くなっています。

医療機関や介護施設はクラスター(集団感染)が発生しやすい場所です。ウイルスの感染力は消失しませんが、マスク着用、手洗い、消毒を徹底し、三密空間を避けて、社会的距離を取るように日常生活に心がけましょう。



県立静岡がんセンター 感染症内科部長

くらい はなこ 倉井 華子氏

2002年富山大医学部卒。東京都立駒込病院レジデント、横浜市立市民病院感染症内科を経て静岡がんセンター感染症内科副院長、13年から現職。県感染症発生動向調査委員、県薬剤耐性(AMR)対策部会委員長。1977年岐阜県出身。

新型コロナウイルスの特効薬はまだ決定打がありませんが、今、主に三つの薬剤の解析が進んでいます。一つはステロイド剤。酸素吸入されるような中等症以上の患者さんで死亡率を下げるなど良い成績が出ています。抗ウイルス薬ではレムデシビル、ファビピラビル(アビガン)が使われていますが、どちらも回復が数日早まる程度の効果で、特効薬にはなり得ません。また、ワクチンの開発も進んでいます。私たちができることは、感染しないことです。感染経路に関しては、いわゆる「三密」、換気が悪い密閉した空間、密集した場所、密接する状況を回避してください。感染経路は、ウイルスの感染力は消失しませんが、マスク着用、手洗い、消毒を徹底し、三密空間を避けて、社会的距離を取るように日常生活に心がけましょう。

今回のコロナ禍の影響により、今年ががん発症の診断数が39%も減少したという報告がありました。感染を恐れるあまり、検診を受けなかった人が多かったのが一因ですが、感染を恐れてがんを見逃しては本末転倒です。予防万全の上で検診や治療を積極的に行ってください。これからの季節、日本ではインフルエンザのピークを迎えます。ワクチン接種はお勧めです。マスクや手洗い、基本的な感染対策を行って、インフルエンザも新型コロナウイルスも広げない世界を皆でつくりましょう。

今回のコロナ禍の影響により、今年ががん発症の診断数が39%も減少したという報告がありました。感染を恐れるあまり、検診を受けなかった人が多かったのが一因ですが、感染を恐れてがんを見逃しては本末転倒です。予防万全の上で検診や治療を積極的に行ってください。これからの季節、日本ではインフルエンザのピークを迎えます。ワクチン接種はお勧めです。マスクや手洗い、基本的な感染対策を行って、インフルエンザも新型コロナウイルスも広げない世界を皆でつくりましょう。

【事前登録申し込み方法】 問い合わせ：TEL 055(462)6520

①郵便番号・住所②氏名③生年月日(西暦)④年齢⑤性別⑥職業(学校名)⑦電話番号⑧FAX番号⑨メールアドレス⑩視聴方法(パソコン、スマホなど)を明記し、下記の静岡新聞社・静岡放送 東部総局事業部にお申し込みください。1回だけの受講も可。

<はがき> 〒410-8560 (住所不要) 静岡新聞社・静岡放送 東部総局事業部「静岡がんセンター公開講座」係

<F A X> 055-962-6752

<Eメール> toubugyoumu@shizuokaonline.com ※FAXとEメールは件名に「静岡がんセンター公開講座」と記してください。